



東京芸術祭 APAF2020
オンラインキャンプ APAF Lab 参加者募集
[応募締切 2020年7月4日(土)]



「Asian Performing Arts Farm (APAF : エーパフ)」とは、アジアのアーティストたちが相互交流によって創造する力を高め、アジアを横断し世界の舞台芸術シーンを翔ける人材への成長を目指す東京芸術祭内の人材育成プログラムです。2020年は原則オンライン開催を予定しています。

APAFのプログラムのひとつ「APAF Lab」では多国籍・多文化の参加者同士がディスカッションやリサーチを重ね、作り手としての基盤を養うとともに、自身の活動や舞台芸術の未来への視座の獲得を目指すアートキャンプです。アジアを拠点に活動する演出家、振付家、劇作家、ドラマトルク、プロデューサー等、舞台芸術の企画において重要な役割を果たす作り手からの参加を公募いたします。(実施言語：英語、参加無料)

| APAF2020 特設サイト <https://apaf.tokyo>

APAF2020テーマ「Anti-Body Experiment」

APAF2020は原則オンライン開催、全体のテーマを“Anti-Body Experiment”と決めました。10月のアジアの状況は予測もつきませんが、次の新たな感染症に備え“集まらないこと”と向き合い、“集まらないこと”への抗体 (Anti-Body) を作る実験です。公演映像の配信のようなパフォーマンスのオンラインコンテンツ化＝非身体化ではなく、オンラインコンテンツのパフォーマンス化＝身体化を目指します。未来を生き抜くためのパフォーマンスの突然変異が生まれることを期待しています。

APAFディレクター 多田淳之介

主催：東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）〕

APAF2020 Lab 実施概要

2020年のAPAF Labは、“集まらない”状況下においてオンラインで連携しながら、個人の活動テーマや関心領域を出発点に、国境を超えてともに思考し実験するための2か月間のオンラインキャンプです。期間中は、Labファシリテーター3名（JK アニコチェ、アルシタ・イスワルダニ、武田 力）が参加者に伴走し、新たな視点や行動を誘発するための4つの「trigger（トリガー）」を足がかりに、協働でのリサーチの場をつくっていきます。最終日には参加者全員が公開プレゼンテーションを行います。

APAF Lab trigger（トリガー）：
「Isolation(s)」 「R/Evolution」 「Prayer: Unseen」 「Nature/Object」

■実施内容・方法

- ・基本的に全てのプログラムをオンラインで実施（使用予定のツール：Zoom、Slack、One Drive等）

リサーチ : 個人の活動テーマや関心領域を出発点とし、triggerから新たな視点や発想を取り入れたリサーチやフィールドワークを実施。参加者は自身のテーマ以外に、別の参加者のテーマについてのリサーチも行います。

ディスカッション : リサーチや、ファシリテーターによるプレゼンテーション等をもとに議論します。

レクチャー : APAFディレクターやゲストによるレクチャーを実施します。

プレゼンテーション : 個人のテーマのリサーチ結果を発表する場です。プログラムのキックオフ時、中間プレゼンテーションを経て、最終公開プレゼンテーションへと進みます。

- ・リサーチに伴うフィールドワーク等は、各自が安全に移動できる範囲で積極的に取り組むことが望ましいです。
- ・活動日以外も、常時Slack等で情報交換を行います。
- ・基本的に参加者同士のコミュニケーションは全て英語です。

■実施日程

期間：2020年8月20日(木)～10月25日(日)

前期活動	8月20日(木) 8月27日(木) 9月3日(木) 9月10日(木)
中間プレゼンテーション	9月17日(木)
後期活動	9月24日(木) 9月28日(月) 10月1日(木) 10月5日(月) 10月8日(木) 10月12日(月) 10月15日(木) 10月19日(月) 10月22日(木)
最終公開プレゼンテーション	リハーサル：10月23日(金) 本番：10月25日(日)

※いずれも時間未定。

※各自のリサーチ作業は上記スケジュールに含まれません。

※上記スケジュールは変更となる可能性があります。

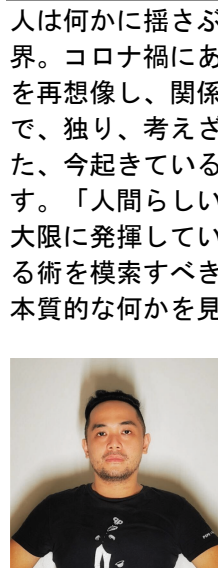
コミュニケーションデザインディレクター制度

APAFでは国や文化等の異なるメンバーが集まる国際協働の現場において、コミュニケーション、対話の方法や質が及ぼす影響について積極的に検証、議論し、指針を示してしていくためコミュニケーションデザインディレクター制度を導入しました。

多様なバックグラウンドの人々が集まったり、多くの参加者にとって母語ではない英語を共通言語とした場で、一人一人の言語レベルやコミュニケーションスタイルを受け入れ、価値観や視点を十分に響き渡らせるには、どのような取り組み方が必要でしょうか。APAF Labでは、実践を通じてコミュニケーションの根本を問い直し、国際協働のあり方を更新していくことを目指します。

APAFコミュニケーションデザインディレクター 相磯展子

JK アニコチェ



JK アニコチェ JK Anicoche
フィリピン

パフォーマンス作家。芸術・文化・社会発展を交差させる活動をおこない、その内容はブラックボックスでのパフォーマンス創作や、多様なコミュニティとの関わりを通じた作品制作を行うなど多岐にわたる。分野にとらわれないパフォーマンス集団 Komunidad X (コムニダッドX) の創設メンバー。また現代文化の研究団体 Sipat Lawin Inc. (シパット・ラウウィン) の芸術監督や、さまざまな芸術祭のフェスティバルディレクターを務める。近年ではニューヨーク、台湾、上海などでも活動を展開。昨年のフェスティバル/トーキョー19では体験型パフォーマンス『Sand (a)isles (サンド・アイル)』を発表。

アルシタ・イスワルダニ

社会的距離を取ることが要求されるパンデミックの状況下で、自然や社会環境への意識が高まっています。私たちは、自らの生活や生き方を振り返り、問い直し、再考し、再構築することを求められているかのようです。

私は、創作という営みは知の(再)生産であり、(舞台)芸術作品とは、関係性の中に存在するものだと考えてきました。アーティストは、ネットワークを通して互いに支え合い、作品を通して知の探求のプロセスを共有し合うべきです。

私たちはAPAF Labと4つのtriggerに誘われ、自分が誰なのか、またコロナ——それはこの宇宙の歴史の循環の一部でもあります——が収束した後には、どんな人間、どんなアーティストになるのか、そしてどんな作品を生み出すのかという本質に触れるような問いが呼び起こされる、そんな旅に出られることを願っています。

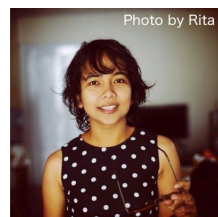


Photo by Rita

アルシタ・イスワルダニ Arsita Iswardhani
インドネシア

1986年生まれ。俳優、パフォーマンス作家。様々な文化・分野横断的なアプローチでパフォーマンス・トレーニングを研究。マーシャルアーツ、ジャワ舞踊、スズキ・トレーニング・メソッドの他、パフォーマンス手法として民族誌学を学ぶ。アジア地域間のコラボレーションに参加するほか、国内および国際フェスティバルでソロパフォーマンスも発表。個人と社会両方の問題に切り込んでいくことを企図した舞台芸術の探求と創作に取り組む演劇集団 Teater Garasi (テアトル・ガラシ) /Garasi Performance Institute (ガラシ・パフォーマンス研究所) のメンバー。APAF2019 Labの参加者。

武田 力

コロナウイルスの蔓延する昨今、わたしたちはこの状況にどう向き合い、これから生きていけるのでしょうか？ New normal (新たな常態) という言葉も聞こえますが、新たな常態とはどのような日常を指すのでしょうか？

“trigger (トリガー)”として挙げた4つは、おぼろげなこれからに照準を合わせるための言葉です。しっかりと狙いを定め、タイミングを見計らい、あなたのtriggerを引いてください。たとえ標的を外しても、そこには勇気をもってtriggerを引いた行動が先に立ちます。その行動はきっと周囲を動かすでしょう。わたしはそこに生じる可能性を拾い上げて周囲に話します。これからをみんなでちゃんと考えるために。だから思い切ってあなたのtriggerを引いてもらえたら嬉しいです。



武田 力 Riki Takeda
日本

1983年生まれ。演出家、民俗芸能アーカイバー。大学で教育学を学び、幼稚園に勤務。その後、チェルフィッチュに俳優として参加し、欧米を中心に活動するも、東日本大震災を機に演出家に。「警察からの指導」「たこ焼き」「小学校教科書」など身近な物事を素材とし、また限界集落の民俗芸能の復活/継承を手掛けるなどして、観客とともに現代社会を思索する。近年はフィリピンや上海で制作や、中国・武漢でアールスペースを展開している。横浜市芸術文化振興財団2016,2017年度クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ、2019年度国際交流基金アジア・フェローシップに選定された。

APAF2020 Lab 募集概要

■参加費

無料

■サポート

- ・ 上限10万円の支給（送金手数料・税金等が引かれます）：インターネット環境の整備費、リサーチ費（資料購入等）、小道具等の作成費として
- ・ 中間プレゼンテーション、最終公開プレゼンテーションでの日英通訳

■応募資格

次の1~6のすべてにあてはまる方

1. アジアを拠点に活動している
2. 舞台芸術作品やプロジェクトにおいて創作上重要な役割を果たしている
3. 原則として35歳以下
4. 全実施日程に参加可能
5. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる
 - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
 - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境
 - Zoomのグループビデオ通話*、Slack、One Drive が利用できる端末（使用ツールは参加者の状況やプログラム内容に応じて追加、変更となる可能性あり）
* Zoomの使用に必要なシステム要件：<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>
 - スマートフォンのみでの参加は非推奨
6. 以下の姿勢および関心を持っている
 - 英語でのコミュニケーションに積極的に参加する姿勢
 - バックグラウンドや価値観が異なる相手との対話を通じて新たな発見を得たいというモチベーション
 - 国際協働におけるコミュニケーションについて考え、実践することへの関心
 - 今後も国際的な舞台芸術の分野で活動続ける意思

■募集人数

日本国内・アジアから10名程度

■募集期間

6月2日(火)16:00~7月4日(土) 23:59（日本標準時）

■選考方法

APAFディレクター、APAF Labファシリテーターによる選考を行います。

一次選考：書類審査

二次選考：オンライン面接（7月28日~8月4日実施）

（応募方法は次ページ）

■ 応募方法

以下、応募フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

応募フォーム（英語） <https://form.run/@apaf2020lab>

※日本語での応募は受け付けていません

<必要事項>

1. 氏名もしくはアーティスト名
2. 国籍
3. 活動拠点（都市名、複数ある方は全て）
4. 生年月日
5. メールアドレス
6. 連絡先住所（日本在住者のみ記入）
7. 日中連絡のつく電話番号
8. 職業（所属など）
9. アーティストプロフィール（150ワード以内）
10. ウェブサイト（あれば）
11. これまで関わった作品の動画リンク（YouTube等）
 - ・ 作品におけるご自身の役割を記載してください
 - ・ 必要に応じて閲覧制限を設定してください
12. 応募動機（150ワード以内）
13. ① 個人の活動テーマや関心領域（200ワード以内）
② 4つのtriggerのうち一番興味を持ったものとその理由（200ワード以内）
「Isolation(s)」 「R/Evolution」 「Prayer: Unseen」 「Nature/Object」
③ APAF Labで取り組みたいリサーチ内容（300ワード以内）
14. 英語レベル
該当するものを次から選んでください
 - a. 簡単な自己紹介や相手との会話ができる
 - b. ある程度準備しておけば、自分の活動の内容を説明することができる
 - c. 自身の専門分野において、抽象的な概念も使いながら考えや意見を述べることができる
 - d. cをもとに、議論を発展させていくことができる
15. オンラインミーティング等に使用する機材（選択式／複数選択可）
※オンラインでの活動に必要な環境は「応募資格」をご確認ください
16. 参加に際して使用するネットワーク環境
17. 二次選考期間 7月28日(火)～8月4日(火) 12:00～18:00（日本標準時）の内、面接に参加できない日時
18. 応募にあたって事務局への連絡事項など

■ 応募締切

2020年7月4日(土) 23:59（日本標準時）

■ 結果発表

合否に関わらず、選考の結果は応募者全員にメールで通知します。

必ずメールでの連絡が取れるようPCや携帯電話の設定をご確認ください。

一次選考結果発表：2020年7月27日(月)までに通知

二次選考結果発表：2020年8月11日(火)頃

■ 留意事項

お預かりした個人情報厳重に保管し、本企画に関する諸連絡以外に使用することはありません。

【お問い合わせ】 APAF制作オフィス MAIL : apaf@tokyo-festival.jp TEL : 03-4213-4293（平日10時～19時）